


京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2023年 司教年頭書簡
「コロナ時代を生きる信仰」
「わたしのシノダリティを創ろう」
を受けて



第2回 ともにを実感して歩む体験に招かれている

「わたしのシノダリティを創ろう」という司教様の呼びかけに接して、ともに歩む実感があるのはどんな場合だろうかと自問しました。親しい人間関係においては実感しやすいけれども、自分の心が誰にでも開かれているかどうかをふりかえると、ともに歩むことは簡単でないと感じます。

今回のシノドスで取り上げられている、「排除をなくし、人を孤立させないこと(包摂)」、「ともに荷を担うこと(共同責任)」、「ともに祈ってみることを選ぶこと(共同識別)」について考えてみると、はたして自分は困難や苦しみの中にある人とともに歩めるだろうか、社会構造が生み出した矛盾と関係がないかのように生活しているのではないだろうか、そんなことが思い浮かびます。ともに歩むことは険しい道のりだと感じます。しかし、シノダリティは、一人ではなく共同体でともに考え、行動することへの招きだと思えます。シノドスの質問に回答して終わりではなく、継続的にともに話したり、考えたりして、少しずつ行動につながられるように、また様々な声に互いに耳を傾けながらともに歩むように、招かれているのだと思います。

シノドスに向けた10の質問に対する各教区からの回答は、「日本の教会の回答書」としてまとめられました。教皇庁シノドス事務局は各国の

回答書に基づき、昨年の10月に、「『あなたたちの天幕に場所を広く取りなさい』(イザヤ54・2)大陸ステージのための作業文書」を発表しました。この文書について、日本の各教区で行ったわかちあいと意見交換の内容をまとめて、司教協議会は今年の1月12日に、「大陸ステージのための作業文書」についてのレポート」を出しました。日本社会の中で苦しむ人に気づく必要があること、日常生活で行われるケアには真の人間関係の提示と宣教の可能性があることなど、多くの示唆があります(中央協議会のホームページに掲載)。

世界各地で話し合われたことが多くの方と共有できるように、文書は公表されています。わかちあうための材料、気づくためのヒントがそこにあります。シノドスの体験を継続することは、教会の活性化につながると期待しています。また、すでに大塚司教様の年頭書簡のわかちあいが教区のホームページで行われています。信徒からの発信にとっても励まされます。

様々な気づきを共有し、ともに歩む体験への招きに、より多くの方とともにこたえることができますように。

京都教区シノドスへの回答集計担当
衣笠教会信徒 伊藤眞一郎

司教年頭書簡は
こちらから↓



カトリック教会にできる 外国につながるの 子どもたちの支援

昨年11月、「京都教区いのち・平和・環境の日の集い」は、オンラインで開催され、上野教会信徒のオチャンテ・村井・ロサ・メルセデスさんに、表題のお話を伺いました。今回は教区時報のために、その時のお話をまとめていただきました。

オチャンテさんは、母方の曾祖父が富山県出身の日系四世です。ペルーの首都リマで生まれ、1996年に15歳で来日されました。現在は大学で、外国にルーツのある子どもたちの教育を研究しております。



オチャンテ・村井・ロサ・メルセデスさん
オンラインの映像より

多言語・多文化化する

日本のカトリック教会

1990年の入国管理法の改正により外国籍労働者に日本への扉が開かれ、ブラジル、ペルー、ボリビア、アルゼンチン出身の日系南米人が多数来日することとなった。日系南米人以外でも日系フィリピン人が多く滞在しており、また国際結婚によって日本人の妻となったフィリピン人女性も80年代後半から増加した。また93年から外国人技能実習制度が施行され、アジアから中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、フィリピンの若い外国人労働者も入国するようになった。現在、在留外国人数は、296万1969人で増加傾向にある(注①)。

(注①)

外国人の増加に伴い、なかでもブラジルのペルー、フィリピンそしてベトナムのキリスト教信者は、信仰を継承できる場、仲間と交流する場を求めて、カトリック教会を訪れ、その活動に関わるようになっていった。

同じキリスト教信者ながら、多様な文化的、言語的背景をもった外国人が増えることで、言葉の壁や文化の違いなど新たな課題も出てきたが、教会は、時には友人として日本人と交流する唯一の場となり、孤立から彼らを守り、支援して、彼らが日本社会に適応するための居場所と所属感を与える大事な役割を果たしている。

カトリック上野教会と

ニューカマーの歴史

三重県の伊賀市にある上野教会には、90年代の入国管理法の改正後、外国人信徒が参加するようになる。90年代後半、ラテンアメリカ出身の信者が増え、ミサの前半「言葉の典礼」を教会のホールで読んで、後半日本人と共に日本語のミサに与るという形態だった。2000年からブラジル・ペルー人によるエスニックコミュニティが形成されるようになり、2001年にブラジルの保護の聖母「アパレンダの聖母」のミサや、ペルーの Señor de los Milagros「奇跡の主」のミサとパーティーが行われるようになる。スペイン語・ポルトガル語を話す司



祭がいたので、外国語のミサもこの時期から行われるようになる。90年代はミサに与るのみの参加だったが、2000年代に入り、コミュニティとして、教会の活動に関わるようになる。その後、英語やタガログ語のミサや、ベトナム信徒の増加に伴い、昨年から日本語のミサの時間内でベトナム語の聖書朗読や、讃美歌を取り入れて、参加しやすいよう工夫されている。現在は日本、ブラジル、ペルー、フィリピン、ベトナムなど全信徒が一つの教会に一致できるような活動をしている。

教会の信徒は多様化しているが、教会で重点的に取り組んでいるのは、多様な子どもたちの信仰教育である。子どもたちの中には、学齢期の途中で来日した子どもたちもいるが、日本生まれ、日本しか知らない子ども達も増えている。彼らの共通言語は日本語であり、日本で将来の夢を築こうとしている。

教会に通う子どもたちの実態

日本では学齢期相当の外国人の子どもは、住民基本台帳上で13万3310人となっている。その中で日本語指導が必要な児童生徒数は、58307人(注②)となっている。上野教会に通う子どもたちも、生活するための言語能力は身についているものの、学校の授業についていくための日本語の能力には課題を抱え、多くの場合、日本語が流暢でない保護者



からは学習支援を受ける機会が少なく、日本人の子どもたちに比べると語彙力も高くない。また、外見による差別やいじめの対象になりやすく、様々な不安を抱えながら学校生活を送っている。

教会に来る子どもたちは、同じルーツや同じ状況にある子どもたち同士で遊び、共に活動することによって、自己肯定感を高めていく。教会での奉仕活動として侍者、聖歌隊、朗読者などの役割を果たし、高校生・中学生・小学生・幼児たち同士で年齢を超えてつながり、お互いから学び合う環境ができています。

教会学校の担当者は外国人信徒や日本人信徒と協力して運営し、担当司祭は定期的に黙想会や交流会を企画し、教会への参加が途切れないようにイベントも実

施している。

また、子どもたちの進路確保のため、3年前から毎週土曜日に学習支援教室も行っている。学習支援に至った経緯は、教会の奉仕を真面目にしていた子どもが高校受験で不合格になり、支援者の私たちがサポートできなかった体験を悔やみ、高校受験を控えている中学3年生を重点的にサポートしたことがきっかけで、今は低学年にも支援を拡げられるようになった。教室名は苦学して司祭となった聖人の保護を願って「コペルティノの聖ヨセフ学習支援教室」と名付けた。

上野教会の外国につながる子どもたちの保護者の多くは、非正規雇用のブルーカラー労働者で、工場や介護施設で働いている。経済的な理由で塾に通えない、また進学できない子どもたちもいる。

私たち教会は、今後も子どもたちが信仰継承に根ざしながら、自己実現できるように、高校進学、専門学校・大学等進学のために支援をさらに拡げ、キリスト教の精神を持って、社会に貢献できる大人に育つことを願って引き続きサポートをしていきたい。

注① 出入国在留管理庁「令和4年6月末現在における在留外国人数」

注② 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(令和3年度)」の結果(速報)について

ベトナム人コミュニティ 伏見教会



京都教区には多くの外国人コミュニティが存在しています。そのなかのひとつ、伏見教会のベトナム人コミュニティを、写真とともにご紹介します。代表者の方に執筆していただきました。

誕生からもつすぐ5年

2018年8月に成立した私達のコミュニティは、この4年の間、伏見小教区のみなさんに溶け込めるように活動を続けてきました。教会の司牧担当者、役員の方々をはじめとする小教区の皆さんから、たくさんのご協力をいただけてきました。そのご支援は、コミュニティがイエスの愛に支えられた諸活動をするうえで大切な力となってきました。



2022年度のコミュニティ

待降節には、若いメンバーが中心になって大きな馬小屋を製作するなど、活発に活動をしています。子どもがいる家族も増えて、あたたかい雰囲気につつまれています。



この馬小屋のイルミネーションはご近所の名物にもなっていて、道行く人が足を止めます。

若い人たちの力を合わせた活動によって、ともに伏見教会を発展させていきます。

クリスマスの夜に

ミサ後、喜びのうちに子どもたちにプレゼントを届けたサンタクロースに、菅原神父と一緒に写真を撮らせていただきました。



伏見教会でのベトナム語ミサ

司教様、司牧担当者、小教区の皆様の熱心なご支援により、伏見教会のベトナム人コミュニティは、ベトナム人司祭を招いてのベトナム語のミサに、2か月ごとに与っています。そのおかげで、コミュニティの活動する精神はますます強化され、お互いのつながりも強くなってきました。私たちはいつもコミュニティがますます成長し、ベトナム語のミサがもっと増えるように願ってやみません。将来的には、いつか私たちのコミュニティを導くことができる方が来られるように期待しております。



12月のミサを司式して下さった
イ神父様 (クラレチアン会) とコミュニティ

***** 青少年委員会より *****

高校生会「冬の集い」 福知山教会および報恩寺聖堂にて

12月27日開催

高校生会「冬の集い」が開催されました。福知山教会の歴史や聖堂の由来について信者の方に説明をしていただき、当日の聖ヨハネ使徒福音記者の祝日の福音箇所（ヨハネ福音20章2～8節）の朗読を聞いた後、参加者は福知山城を訪れ、冬の青空が澄み渡った城下町を一望しました。そして車で約10分のところにある報恩寺聖堂へ。歴史に残る集団改宗の経緯についての説明を聞いたり、教会には珍しい位牌堂を見学



したりして過ごし、最後に教会の皆様と一緒にミサをおささげしました。再び福知山教会に戻り、お茶をいただきながら、分かち合いをして、解散となりました。高校生2名、家族1名と少ない参加者でしたが、福知山小教区の皆様が終始同行してくださり全面的にご協力をいただき、思い出に残るひとときを過ごすことができ感謝申し上げます。春にも企画を予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしています。

高校生会担当司祭 菅原友明

中学生会「冬の集い」 河原町教会にて

12月29日開催

テーマ：今年もやるべえ、卒業式！

今回も無事に対面での中学生会を開催することができました。しかしながら、リーダーや神父様方々の努力もむなく、新型コロナウイルスの流行により本来の形である合宿はまだ行うことができませんでした。それでも中学生たちが楽しむことができたと思います。前回の冬の集いでは分かち合いをしましたが、今回はスケジュールの関係で行うことができませんでした。なので次回の中学生の集いではもう少し時間を確保し、分かち合いができればと思っています。

今回のレクリエーションでは、スーパーハイテンション風船ゲームとワードウルフで遊びました。スーパーハイテンション風船ゲームでは中くらいの風船の連発に、リーダーをはじめ、何度も倒れたり途中で休憩をはさんだりしましたが、中学生たちを見ると満面の笑みで、やってよかったと思いました。



卒業式では、卒業生が一人だったこともあり少々寂しく思う反面、卒業生一人に対して手厚い式ができたと思います。

今回参加してくださった中学生の皆さんや保護者の皆様、また開催にあたっていろいろと動いてくださった青年センターの皆様、ありがとうございました。大変厚かましいのですが、次回の中学生会の開催にもお力添えしていただくと幸いです。

中学生会リーダー 長浜教会 菊川ガブリエル

小教区評議会役員交流会

サイクルテーマ②教会共同体づくり 「シノドス・ともに歩む共同体づくり」

昨年10月1日(土)、小教区評議会役員交流会をオンラインで開催し、29小教区から役員と司牧担当者合わせて約60名が参加した。

シノドスのまとめを受けて

第16回世界代表司教会議(シノドス)のテーマ「ともに歩む教会」交わり、参加、宣教」が表すように、現在、フランスコ教会の呼びかけで、すべてのカトリック教会がその準備過程に参加している。昨年8月には、日本の教会の回答のまとめが教皇庁に提出された(中央協議会ホームページに全文掲載)。それを受けて今回は、日本の回答から見えてくる課題と共同体づくりについて考える機会とした。

司教講話―分かち合いの導入として

まず大塚司教は、昨春に行われた役員研修会での3人の司祭の講話を、キーワード「自己開示」「人が共同体を作る」「教会の底力」―を挙げながら振り返った(時報2022年8月号「小教区評議会役員研修会報告」参照)。続いて、

日本のシノドス回答から見えてくる日本の教会の現状として、「司祭・修道者の減少」「信徒の減少と高齢化」「会議や行事に疲弊した教会共同体」「財政問題」「教会内部の不一致」があり、京都教区で起こっているのと同様のことが全教区で起こっていると話した。また、「今回、回答しなかった人たちの声をどう拾い上げるか」が今後の大きな課題であると語った。回答から浮かび上がった教会共同体づくりの切り口として、次の4点を挙げた。①「語る」教会から「聴く」教会へ、②「日本人信徒」と「外国籍信徒」の協働、③「祝う」ことを実感する典礼・ミサを意識する、④「ともに歩む」べき人は周囲、社会で助けを必要とする人。

一場神父コメント

一場神父は、シノドスの歩みの中で思ったこととして「使徒信条の『教会を信じます』という言葉は、一緒に歩んでいる仲間を信じること。その根拠は洗礼である」と語り、様々な問題を抱える教会でも、洗礼によって神の子どもとされた者として、信じ合い、分かち合っていくよう参加者を励ました。

信徒による発表と分かち合い

信徒によるシノドス回答作成取り組みについての発表では「普段聴くことのできない意見を聴くことができた」と、コロナによる制限がある中でも実りのある

分かち合いができたことが伝えられた。また「信徒一人ひとりが役割をもつことで教会の一員という自覚や居場所ができる」といった共同体づくりのヒントとなる意見も出された。教区回答まとめ作業に携わった信徒は、「回答やまとめは過程に過ぎず、分かち合いの継続、思いを聞き取ることが大切」と、今後もこの歩みを継続することの重要性を語った。発表の後、参加者は小グループに分かれ、「小教区やブロックの現状から、シノドス・ともに歩む教会共同体づくりのために何ができるか」というテーマで分かち合いを行った。

最後に大塚司教は「共同体づくりについて考えること自体がシノダリティ」と、この交流会もシノドスの歩みであることを強調。そしてこの日が記念日の幼きイエスの聖テレジアの言葉を紹介し、「教会の奉仕は様々だが、愛を生き、愛を分かち合うこと」と結んだ。

(文責・福音宣教企画室)

■役員研修サイクルテーマ■

役員研修では、3年周期で3つのテーマを繰り返し扱っている。

- ① 教会と福音宣教の理解
- ② 教会共同体づくり
- ③ 社会への福音宣教

チェジュ教区司祭・助祭叙階式
 2023年1月14日 三位一体大聖堂にて



イ・ウォンギョ 新司祭 ゴ・スンゴン 新助祭

おめでとうございます！

京都教区とチェジュ教区は、2005年6月7日に姉妹教区の縁組をし、司祭・神学生・信徒間の交流が行われています。

春プロジェクトご案内

青年の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。春プロジェクト(春プロ)のご案内です。「春プロジェクトってなんや!?!」という方、「春プロかぁ。久しぶりに聞いたな」という方、色々おられるかと思います。春プロは新青年を歓迎して交流を深めようというイベントで、2019年までは合宿という形で行っていましたが、ここ数年は開催できませんでした。今年は日帰りで参加いただけるような企画の準備を進めています。当日の内容は以下の通りです。

日程：5月20日④ 時間：昼過ぎから夕方まで？
 場所：未定 参加費：未定 定員：未定

いやほぼ決まってへんやんけ!!! ということで、詳しくは京都カトリック青年センターのHPやSNSで追ってご案内いたします。ちょっとでも気になった方は、今後の情報をチェックしていただければ幸いです。

新青年の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

運営委員/西院教会 栗井 幹

つながりネットワーク 夢のようコミュニケーション

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について
 京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
 青年の各務活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも
見てね！

青年センターあんでな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



3月のお知らせ

教 区

信仰教育委員会

ミサを学ぶII

日 時：25日⊕ 13:30～15:30
 場 所：西陣教会
 講 師：信仰教育委員会担当司祭
 対 象：4月からの新しい学年で
 小学5年生・6年生・中学1年生・
 中学2年生・中学3年生
 申 込：各小教区に送付した指定の申込
 用紙にてメールまたはFaxで
 信仰教育委員会まで
 メール/shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp
 Fax/075-366-6679

青少年委員会

高校生会春の集い

日 時：31日⊕ 14:00～17:00
 場 所：桃山教会
 対 象：高校生(新入生卒業生含)とその
 家族友人
 申込不要 参加費無料 当日現地集合
 問合せ：075-611-5695 桃山教会・菅原神父



聖書委員会

2022年オンライン聖書講座DVD頒布

「人はなぜ病み、苦しむのか
 ー聖書からの問いー」
 パソコン視聴用 レジュメ入り
 全12講話ではDVD3枚
 4講話が1枚に入って1枚2,000円
 申込・問合せは聖書委員会まで
 メール：seisho@kyoto.catholic.jp
 Tel・Fax：075-366-6609

広報委員会

教区時報5月号の原稿締切日は3月27日⊕です。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

祈りと歌の集い 12日⊕ 14:00
 河原町教会聖堂

一般の方も参加自由
 問合せ：075-951-4283 則武 隆
コーロ・チェレステ(女声コーラス)
 練 習：9日⊕ 10:00 23日⊕ 10:00
 河原町教会2階楽廊

どなたでも練習にご参加ください。
 問合せ：075-701-3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)
 日 時：23日⊕ 13:00～15:00
 場 所：希望の家地域福祉センター
 京都市南区東九条東岩本町31-10
 新型コロナの状況により中止となる場合あり
 問合せ：Tel・Fax：075-723-1135 傳 裕子

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)
 K B S 京 都 ⊕～⊕ 朝 5:55
 ⊕ 朝 5:15
 ラジオ関西 ⊕～⊕ 朝 5:00
 ⊕ 朝 6:05
 毎日放送 ⊕～⊕ 朝 5:45
 ⊕ 朝 4:55

3月のテーマ「渴き」
 ホームページもご覧ください。
 長年この番組に寄稿して下さった遠藤
 周作氏の生誕百年を記念して、当時の
 エッセイを新しく朗読し、毎月第4月曜
 日に放送します。



ご存じですか？

皆さまのまわりの必要な方に、点訳版
 「京都教区時報」があることをお伝えく
 ださい。

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ
 障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)
 裕子さんまでお申込みください。
 Tel・Fax/079-431-8601